

図書ニュース

大阪府立北野高校図書館

第2号 2018.4.19

図書館サポート員が選んだ、お勧め第二弾！

Welcome to 北野高校図書館

◎大阪府立高校の中で随一の蔵書数◎

◎静かな空間なので読書・勉強に最適◎

最近では昼休みに多くの人が図書館で勉強
している。是非、そのついでに本を借りてみてください。
帰る時、横階段を利用するのがおすすめです。

～PM.5.00

「世界で一番美しい元素図鑑」 [431/43/1]

この本の魅力は何といっても、美しい元素
の写真です。また、この本では、元素の専門
的な知識もそうですが、それぞれの元素の
意外な面白い事実を知ることができます。
見る事のみでも楽しい、読む事で更に楽しむ
ことができる本なので、ぜひ手に取ってみて
下さい。

ヘリウムは
宇宙で一番初
めに発見された？

[913/N2/9]他

中学校、高校の教科書で
お馬鹿な夏目漱石の
代表作の一つ、「第十夜」。教科書
には、「第一夜」しか掲載されてい
ないことが多いのですが、「第三夜」
「第十夜」は非常に読みやすく、
吸い込まれるような魅力に満ちたお話です。
他のお話も思わず惹かれてしまうものばかり……。
ぜひ、この機会にご一読を！

「夢をかなえるゾウ」

—ダメな僕を変えたのは…
関西弁をしゃべる変な神様

ガネーシャでした

この本を読んだ後、
あなたは行動したくなる。



裏にもあります！

オススメ本！→

図書館サポーターの

雨の日にこんな本もどうですか？

『麒麟の翼』 東野圭吾 [9/13/H50/18]

この本の舞台は東京。事件は東京に実在する日本橋の中央にある麒麟像で起こります。胸にナイフが刺さったまま、麒麟像まで歩き地からつけた一人の男性。事件直後に現場から逃走しトラックにはねられ、昏睡状態に陥った一人の男。この事件で被害者の家族、加害者の恋人の人生は大きく変わる事になります。この本では「親子の愛情」、麒麟の像にこめられている「夢へと羽ばたいていく」という意味、この二つが物語の鍵を握ります。人々のたくさんの思いが交錯しており、人間の心情描写に重点を置いて読むのがオススメです。この作品には加賀恭一郎という刑事が出てくるのですが、東野圭吾さんの作品の中でも「卒業」を始めとして「眠りの森」

「悪意」など様々な作品に登場しています。「麒麟の翼」はその中でも九番目の作品で一番目から順番に加賀恭一郎の人生をたどりながら読んでみるのも面白いかもしれません。

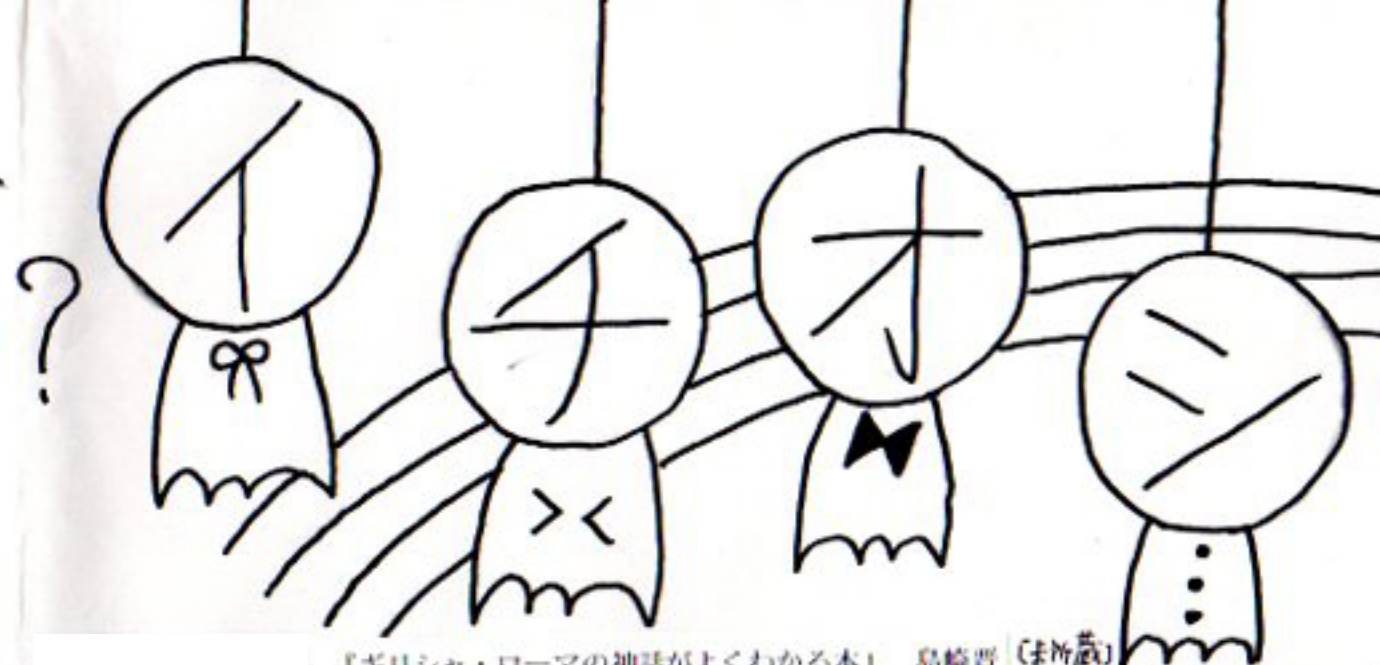
東野圭吾さんは様々なジャンルで活躍しており、映画化されている作品も多いです。映画を見て、本に興味を持って読むなども良いと思うので、是非図書館に来て本を手にとってみて下さい。

『痴人の愛』 谷崎潤一郎 [9/18/T3/6] 全巻

この度は谷崎潤一郎の「痴人の愛」をご紹介します。この学校に通っている皆様なら、本の名前自体はききとご存知のことでしょう。でも、なんだか読みにくそう、堅苦しそうで手が出しにくい……、と思っている方はいませんか？ 実は全くそんなことはないんです！ ではここで少しあらすじの紹介を。

主人公である平々凡々とした会社員、河合譲治はカフェで奉公をする、どこか陰を落としたような無口な十五・六の少女、奈緒美に出会います。ところがこの少女、瑞々しい果実のような若々しさと共に、どこか利口そうな所謂ハイカラな顔立ち、それから日本人離れしたうつくしい肢体を持ちあわせていたのです。譲治は多少の同情心も手伝ってこのうつくしい少女を引き取り、彼女の欲しがるものはなんでも与え、一流の女に育てたい、と思うようになります。そこから始まっていく譲治と奈緒美の生活は頁を捲るにつれて歯車のひとつがどこか合わないような、そんな違和感があなたを襲うことでしょう。きっと気づいたころには……。ここからはあなたの目で確かめていただければ。

さあ、このまるきり毒のような、退廃的でどうにも忍ばれる「痴人の愛」を今こそ手に取り、あなたもこの世界へ足を踏み入れるときです。是非あなたも図書館へおいでください。



『ギリシャ・ローマの神話がよくわかる本』 島崎晋 [4/10/H21/13]

みなさんは、あの有名なスポーツブランド、ナイキの語源を知っていますか？ また、なぜメダリストは月桂樹の冠をかぶるのでしょうか？ 更に、ヨーロッパの意外な語源を知っていますか？ これらはすべてギリシャ神話で解決します。

勝利の女神ニケ、彼女の名前をそのまま英語読みしたらナイキ。もうお分かりですよね。これがナイキの語源です。ちなみに彼女、素敵な翼も持っていて、それをもとにデザインされたものが同社のマークにもなっています。

メダリストが月桂樹の冠をかぶるのは、芸術、医術、哲学など古代ギリシャで花開いた分野を司る光の神、アポロンが大きな鍵をにぎっています。詳しい理由は…

…自分で確かめてください。

ヨーロッパの語源も、ゲームや映画で一度は聞いたことのある彼が、関係していますよ。

ぜひ一度、手に取って聞いてみてください。ギリシャ神話の虜になることまちがいにしです。

『ものぐさ数学のすすめ』 森毅 [4/10/H21/13]

この本の著者、森毅さん(1928. 1. 10~2010. 7. 24)は、北野高校(旧制北野中学校)の卒業生で、京都大学名誉教授を務めていらっしゃる方です。彼は数学者でありながら、評論活動も盛んにされていて、多くのエッセイ集が北野高校に所蔵されています。これだけを知ると、「何だ、読みにくい評論など誰が手に取るんだ」とムキになる人もいるでしょうが、実はそんなことはなく、良い意味で、「ものぐさ」な口調で、簡潔に、本質的に語られていて、大変読み易い本が多いです。そこは、さすが数学者だなと思います。

さて、この本の詳しい中身についてです。一つあたり2~3ページのエッセイが、50個ほど収録されており、「数学者の愛」「大学と入試」「若い仲間」「ダメな人間のバラード」「ものぐさ数学のすすめ」「森一刀斎の受験道場」の6章にあらかじめ分かれています。どれも独立して数学だけの話をしたり、入試だけの話をするのではなく、様々な分野の話が織り混ぜられた文章です。受験生にオススメなのは、「森一刀斎の受験道場」。安心させてくれますよ。しんどいなと思ったときには、ぜひ読んでみてください。ムダだと思う人がいたとしてもムダをできるのは学生のうちですからどうぞ。